

普及活動情勢報告（令和6年10月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

酷暑を乗り越えて ～JA高知県四万十ハウスミョウガ部会通常総会～



通常総会の様子

9月26日、JA高知県四万十ハウスミョウガ部会通常総会が開催され、生産者28名が参加しました。

総会ではJAからの販売報告や指導報告、役員改選が行われました。普及所からは令和6園芸年度の栽培状況の振り返り、最近増えている病害虫とその対策について説明しました。

生産者からは最近の農薬登録推進に向けた動きや、須崎で発生している葉鞘腐敗症に関して質問があり、「抵抗性を獲得した害虫に効果のある農薬の数を増やして欲しい」「少し黒く変色した種根茎を定植したが大丈夫なのか」といった意見がありました。

普及所は関係機関と協力し、変化していく環境に合わせた栽培指導を行っていきます。

農福連携の現状や課題を共有しよう ～四万十町農福連携推進協議会の開催～



ワークショップで活発な意見交換が行われました

10月1日、今年度第2回目となる四万十町農福連携推進協議会が開催され、福祉事業所関係者や農業関係者17名が出席しました。

今年度の活動経過報告と今後の活動内容を協議した後、県の農福連携サポーターの公文氏がファシリテーターとなって、ワークショップを実施しました。

今回のワークショップは、普及所とサポーターが事前に協議して内容を検討しており、参加者からは、「普段の活動で聞きにくいことが聞けた」「今回話した内容をもっと広げたい」など、高評価を得られました。

協議会では今後も農福連携の取組拡大に向け、関係者で連携して活動していきます。

生姜の大量消費方法！地元の食べ方紹介 ～JA高知県四万十生姜部会オンライン出前授業～



オンライン出前授業で四万十町の生姜をPR

10月8日、東京調理製菓専門学校西洋料理コースの学生25名を対象に、JA高知県四万十生姜部会がオンライン出前授業を開催し、普及所は動画作成等の支援を行いました。

出前授業では、四万十町での生姜栽培の様子や囲い生姜と新生姜の違い等について説明を行った後、生姜を大量に消費する地元ならではの食べ方を紹介しました。

普段は薬味として少量使用される生姜ですが、地元では鍋の具材、餃子やピザ等に使うことに、学生の皆さんは驚いた様子で出前授業を聴いていました。

普及所は、今後も生姜の安定生産及び販売促進を支援していきます。

「ひがしやま」用人参芋の収穫が始まります ～四万十の芋プロジェクト協議会・目慣会～



目慣会で報道2社が取材

10月11日、四万十の芋プロジェクト協議会主催の目慣会が開催されサツマイモ生産者・関係者など約35名が参加しました。

目慣会では、事務局の四万十ドラマから出荷規格や集荷日程、生産履歴の提出など出荷時の注意点を説明した後、普及所から貯蔵中の歩留まりを上げるための管理上のポイントを説明しました。

生産者からは「今年の夏はとても暑く管理に苦労した」「植付けが遅れたが収穫期を遅らせても大丈夫？」などの意見や質問がありました。

普及所では、今後も四万十川流域の環境と調和した、安全安心な加工用サツマイモの安定生産を支援します。

今年のユズの生育状況を確認 ～JA高知県四万十ゆず研究会・出荷検討会～



今年のユズの出来具合を熱心に協議

10月18日、JA高知県四万十ゆず研究会の出荷検討会が開催され、生産者30名が参加しました。

検討会では、果実のサンプルを見ながら出荷規格の確認を行いました。普及所からは、礼肥の施用時期や冬から春にかけての作業のポイントについて説明しました。

生産者からは、「礼肥施用の時期が収穫時期の遅れや腐敗果の発生、耐寒性や樹勢の低下につながることを理解できた」「適期の礼肥施用に注意したい」といった声が聞かれました。

次回は剪定講習会を開催し、ユズの安定生産を支援していきます。

非辛みシントウを知ってもらおう！ ～JA高知県十和ししとう部会食味調査～



道の駅四万十とおわでの食味調査

10月19日、道の駅四万十とおわでJA、生産者、普及所の計5名で非辛みシントウの食味調査を行いました。

食味調査では、非辛みシントウと豚肉を炒めたものを、道の駅を訪れたお客さんに試食していただき、アンケート用紙に食味等の感想を回答してもらう形で行い、30人以上から回答を得ました。

試食したお客さんからは「とても美味しかった」「辛くないシントウが手軽に購入できたら料理に取り入れたい」などの声が聞かれました。

普及所はアンケート結果を分析して、非辛みシントウの魅力発信活動を支援していきます。